

第21回ガスタービン教育シンポジウム報告

澤 徹
SAWA TETSU

2012年7月5日(木)、6日(金)の2日間にわたり、「第21回ガスタービン教育シンポジウム」が東京都昭島市のIHI昭島事業所と近接するIHI瑞穂工場にて開催された。今年度は関東地区、関西地区それぞれで開催されるため、参加者数の減少が心配されたが、最終的には72名(学生23名、社会人49名)となり昨年度とほぼ同じ参加者数となった。

本シンポジウムは、主にガスタービンの初心者を対象に、ガスタービンの基礎知識を学んで頂く目的で、第一線で活躍されている各専門家による講義と、実際のガスタービンとその関連の製造及び研究開発施設等の見学を併せた企画であり、今回も1日目に講義2テーマと特別講義(ターボファンエンジン用複合材ファン部品の開発)及びIHI瑞穂工場の生産設備・試験設備見学と「IHIそらの未来館」の見学会を実施し、2日目に講義4テーマを実施した。

1日目は、集会行事委員会の山根理事による開会の挨拶の後、3テーマの講義、(1)ガスタービン概論(二村尚夫委員長)、(2)ターボファンエンジン用複合材ファン部品の開発(盛田英夫氏)、(3)ガスタービンと流体力学(濱崎浩志氏)の講義が行われた。その後、官学・ガスタービンユーザー企業参加者とメーカー企業参加者に別れ、生産設備・試験設備の見学と「IHIそらの未来館」の見学をそれぞれ行った。官学・ガスタービンユーザー企業参加者は、瑞穂工場内の生産設備として航空機用エンジン組立ラインと部品検査・メンテナンス工程ラインを、試験設備として最大推力4万ポンド級のジェットエンジン試験セルを、研究関連として技術開発センター展示室にて小型エコエンジンプロジェクトなどで開発された先進技術の見学をおこなった。一方、メーカー企業参加者はIHI航空機関係の各工場の概要ならびに研究内容のビデオ紹介があった後、IHI昭島事業所に併設されている「IHIそらの未来館」を見学した。館内には日本のガスタービン開発の歴史ならびにIHIの生産、開発の歴史をたどるように航空機用や発電用の

ガスタービンの実物や模型が展示されており、本物の大型ジェットエンジンを前にして史料館案内者による詳細な説明があった。

設備見学終了後、同事業所内にある多目的ルームで懇親会が開催された。懇親会にはシンポジウム参加者の約8割の方が出席し、1日目の講師の先生方にも出席頂いた。会場の各所で官学および企業間の枠をこえた議論と相互交流がなされ、時間いっぱいまで有意義な時間を過ごすことができた。

2日目は、前日に引き続きガスタービン関連の4テーマの講義、(4)ガスタービンと伝熱工学(福山佳孝氏)、(5)ガスタービンと燃焼工学(岩井保憲氏)、(6)ガスタービンと材料工学(屋口正次氏)、(7)ガスタービンと制御工学(古川洋之氏)が行われた。各講義はガスタービンの基礎ならびに最新の技術動向を専門家の立場から説明していただいたことから、受講者にとっても今後の研究・仕事などを進める上で多いに役立つ内容の濃い講義となっており、皆熱心に聴講していた。全講義終了後、2日間にわたる講義に参加者の修了の証として受講修了証が全員に手渡された。また、参加者に対し今後の当シンポジウムの運営及び教材に関するアンケートの提出に御協力頂いた。アンケート集計結果は次回以降の企画及び教材の改訂に反映する予定である。

本シンポジウムでは「ガスタービン技術継続教育教材作成委員会」で編集された書籍を教材として用い、その執筆者の先生方を中心に講師をお願いしている。今回の講義では教材の中の基礎編のみを扱ったが、教材には応用編や練習問題も含まれているので、参加された皆様にはこれらを有効に活用し、ガスタービンの知識を深めるのに役立てて頂ければ幸いである。

最後に、講義、資料等の作成・準備にご尽力して頂いた講師の先生方々に感謝すると共に、会場の提供、見学会及び懇親会についてご協力を頂いた株式会社IHIの関係者各位に深く感謝いたします。

(集会行事委員会委員)



講義風景



懇親会風景